

今月の聖句

『悪に負けることなく、善をもって悪に勝ちなさい。』
ローマの信徒への手紙 第12章 21節

◎3月の予定

- 1日(木) 卒業遠足(中3)
 - 6日(火) スケート教室(小4〜6)
 - 15日(木) 教務委員会
 - 16日(金) 給食終了
 - 17日(土) ハンドベル部コンサート(14時〜)
 - 19日(月) 3学期終業礼拝
教職員協議会
 - 20日(火) 卒業礼拝式予行
 - 21日(祝・水) 卒業礼拝式・祝う会
 - 27日(火) 理事会・評議員会
 - ☆ステパノカップ
 - 2日 サッカー・5日 バasketボール
 - 7日 陸上・9日 バレーボール
- ◎4月の予定
- 4日(水) 教務委員会
 - 5日(木) 教職員協議会
 - 6日(金) 入学礼拝式・学期始業礼拝



最近の行事

小4〜小6 児童連形展覧会

今年の企画展ではアオバトの絵を出品しました。



中学校やまぎそば大会

学年末試験後にみんなで協力して、やまぎそば、鍋、チョコバナナを作りました。



◎今月の行事から

☆2日(金)〜9日(金)

ステパノカップ(中学校)

「ステパノカップ」は中学校運動部(サッカー部、バレー部、陸上競技部、バスケットボール部)の一年間の活動の成果を発表する場です。それぞれの活動で教員も一緒にプレーする場面もあります。

また、最終日には各部のMVPの表彰もありますので、どうぞ多くの方々のご声援をお願い致します。



☆19日(月) 3学期終業礼拝

在校生の修了証書授与及び、児童・生徒の本学年度皆勤賞等の表彰があります。

☆21日(祝・水) 卒業礼拝式

二〇一七年度は、小学生・中学生合わせて三十六名が卒業します。キリスト学校での学びがこれから巣立ちゆく彼らにとって、どんなに大切に意味深いものであったかを改めて実感する時です。

* 座席数の都合上、昨年度より礼拝式への参列は卒業生とその保護者、小4以上の在校生及びご来賓の方々と教職員のみとさせていただきます。

ご理解とご協力をお願い致します。



三月の声を聴くと

学園長 小川正夫

三月の声を聴くと、どことなく春めいて、空が明るく感じられ、「有難うございました」「おめでとうございます」「しっかり頑張つて」

「良かったね」という声が聞こえます。子ども達の表情も、どことなく明るく映ります。

学校では卒業式があり、希望を胸一杯にした巣立ちの時、別れの時でもあり、先生や先輩からは、教訓的な、はなむけの言葉が贈られますが、この数年どうしても、三月になると心を離れることがなく、どうすることもできない、重く悲しい思いが心をふさぎます。

二〇一一年三月十一日東北地方を襲ったM8.8の大地震と津波で、卒業式に参加することもできず、多くの愛する子ども達が尊い命を奪われた悲しみと辛い無念な思いは七年たった今も癒されることなく胸が痛みます。

三月十一日の言葉と並んで私の心に強く残り決して忘れることはない記憶は一九四五年三月十日の東京大空襲です。東京の町は地上戦こそありませんでしたが、毎晩のように米軍爆撃機による空爆がありました。のちの記録によると、延べ二百機の世界最大のB29爆撃機が、下町を中心に、およそ33万発の焼夷弾を絨毯を敷くように無差別に投下、およそ10万人の市民がなくなつたそうですが、その時どうすることもできず、火の中を逃げ惑つ

ていた中学二年生の私がおりました。

先日手にした畑村陽太郎さんという方の著書に「失敗学」という考えが提唱されています。その中で事故や災害や失敗も時間が経過すると次第に記憶が失われていきますが、忘却の時間には法則があるといえます。その中で3という数字を挙げていました。

例えば個人のレベルでみると、様々な出来事も三日で飽きて、三か月で冷めて、三年で忘れるといえます。マスコミの報道もこのレベルと考えられます。

会社などの組織では、事故の記憶や学んだ教訓、業績目標は三年で薄れ、三十年で途絶えるといえます。伝えていく意思があるか、記憶を呼び戻すきっかけをあえて作り出さないと記憶は次第に遠ざかっていくようです。毎日生活している学校の教室でさえ、四年

前の細部は記憶から遠のきます。

日本が、アメリカ、イギリス、中国と戦争をしてきたことも、大都市の殆どが空爆で焦土と化したことも、広島、長崎に原子爆弾が落とされ多数の一般市民がなくなったことも、福島原発の事故も、各地で頻発する地震災害、様々な事件事故。北朝鮮拉致事件、二度と経験してはならないと誓いながら、思い出すきっかけがないと、忘れてしまいます。自分と直接関係が無かったりする時はなおさらで、記憶は伝えていく努力を怠ると、消滅してしまうという事です。殊に、思い出したくない事柄は、忘れられませんが潜在意識として

心の奥に残ります。

過去を蔑ろにするものは、未来を失うという言葉がありますが、自分にとつては、すでに忘れてしまったようなことでも、相手は、生涯、決して忘れることはないようなことも在るのです。過去にはこだわらない、とらわれない、偏らない、前向きな気持ちを自分の心に育む努力が大切です。

不思議なことに、私たちは他人を助けてあげたこと、親切にしてあげたことはよく覚えていても、他人から助けてもらつたり、親切にして頂いたりしたことは簡単に忘れられます。また、気が付かずに人の心を傷つけていても、それほど気にせず、他人から心を傷つけられたい思いはいつまでも忘れることができません。時には周辺の人にまで、さか恨みの感情を持つたりすることがあります。

少し次元の異なる話になりますが、三十年も前のことです。パール・ハーバーのアリゾナ記念館を訪ねたことがありますが、日本人は私達二人、大勢の観光客の心の視線にはかなりの重圧を感じました。反対に、スミソニアン博物館のエノラ・ゲイ（広島に原爆を落とした爆撃機）の前では、戦争を終結に導き、平和をもたらした航空機と米国人観光客は誇らしげでした。一つの事実に対しても価値観は人によつて異なることがあります。自分自身が間違つた歩みを選ぶ危険に陥らないためには、相手の立場に立って物事を考えられる努力をすることもできません。

心を耕す

統括教頭 中村 弘之

入学希望の方をご案内することがある。お話を伺いながら、小学校の説明をし、見学できる学年があれば、授業の様子を見ていただくことがある。

この日も、小学校入学を希望する母子が来校された。お子さんはだいたい人見知りのようで、校舎に入り、教室に入る段になると途端におびえたような表情になった。お母さんと私は、気が変わるように促したが、ますます尻込みしてしまった。そしてついに逃げ出してしまった。この日はちょうど、どの学年も教室で授業していたので、一年教室から順番に六年教室までご案内したのだが、どの教室でも同じように、中をのぞいては逃げ出してしまうのだった。

私は、授業を受けている子どもたちの事も気になった。見学者が来るだけでも授業の集中が途切れてしまう。子ども達にも先生にも邪魔をしている気がするのだが、今回は入口で何やらもめていて、小さな子が中を覗いては怖そうに逃げて行ってしまふのだから。

とところが子どもたちはあたたかかった。低学年は、心配そうに入口のところまできて、

「どうしたの？」

「大丈夫だよー。」
と、声をかけてくれる。

高学年は、一部始終を見て

「かわいい。」

と、ここにこ笑っている。

本当にあたたかい空気がどの学年からも感じられた。お母様はそれを見て聖ステパノ学園を十分理解されたようだ。満足そうに帰られた。私も胸が熱くなった。

インクルーシブ教育のもたらしたものかもしれない。いろいろな人がいて、一緒に生活し勉強している。できることもできないこともさらけ出し合いながら、受け入れ合うよう日々努力している。これは簡単なことではない。ぶつかり合い、傷つけあうこともある。

そこで何が起きているのかといえば、私心が耕されているのだと思う。

農業は、土の状態をよくすることに大半の時間を使う。酸性に偏っていないか。窒素、リン酸、カリの三大栄養素が作りたい作物に對して十分か等々に常に気を配る。日本では、高度経済成長長期に化学肥料と、農薬を多用したため、地力が低下した。最近、その反省から有機農法、自然農法等が見直されてきた。人間と同じように、植物にも三大栄養素の他にビタミンやミネラルも必要だとわかってきた。

そして、よく耕すことだ。根に十分な空気や水分、栄養が行き、伸びていけるように。

素人は、植物の地上部分に、目が行き、地下、つまり根の張り具合に気づかない。玄人は、地上部分は地下部分の写し鏡のようにとらえるそうだ。

実は、私たちがどんなに一生懸命に耕しても、踏んだり、雨がひと降りしたりすれば、土はすぐに固くなる。ところがいつでもふわふわしている土がある。草原や林の中に見られる。そのような土は、理想的と言われる団粒構造(土が小さな粒になり、通気性が良い)が出来ている。この状態は人工では作れない。では、何が団粒構造を持った土を作り出しているか？

答えは「ミミズ」である。ミミズは英語で Earthworm (地球の虫) というそうだ。環状の体をしたミミズは口から食べた土を、体内で栄養分を吸収し、排せつ物として団粒構造のひと塊を後ろに排泄しながら、土の中を動き回る。そして、ミミズはある程度温かく、湿り気があり、暗い所が好きだから、落ち葉が積もっていたり、土の表面を草が覆っていたりする土地の方が住みやすい。人が耕している畑にはミミズは住みにくい。皮肉なことに、長期的に見ると、人が耕せば耕すほど土は栄養を失い、固くなる。

神様は、本当に上手に自然を作られた。子どもたちの心も、人工的(人の思いで行なう)に耕すのではなく、自然(神様のご計画)に耕されていくのだと、あの教室の雰囲気から感じた。

今年もまたこの季節がやってきました。この時期になると新しい進路へ向けて多方面で動きが見られます。先日、気になったのは、

北海道日本ハムファイターズから、アメリカメジャーリーグのロサンゼルス・エンジェルスへ行った二刀流の大谷翔平選手の言葉です。最初の記者会見で、そのまま書きますと『ちゃんとやった人にはちゃんとやった成果が出てほしい』という言葉でした。この言葉を聞いて私はとても感銘を受け納得してしまいました。何でもない言葉のようですがとても意味深く、大谷選手が真面目にコツコツ努力をしてきた生き様が表され、社会へ向けての願いの言葉のようにも感じられました。

そもそもこの『ちゃんとやる』とは、何をもって、何をして『ちゃんとやった』ことになるのかを考えると、今年度は、10年ぶりに小学6年生の担任になり卒業を数日後に控えている状況の中で、はたして、自分自身の学級経営・学習指導・生活指導又その他の業務事項はどうであったのか『ちゃんとできていたのか』今の自分自身の立ち位置を通して考える良い機会になりました。『ちゃんとやる、やった』という言葉を考える時、この基準は人それぞれですが、私の『ちゃんとやる』は準備と段取りを淡々と行い、忍耐強く誠実に

物事に取り組み努力をする。そして、人にも物事に対しても、丁寧に感謝をして向かうこと、ありきたりの言葉になります。何でもない小さなことに真面目に取り組み、一生懸命やり続けることが、成果や結果につながり、『ちゃんとやる』ということになると思っています。

小6の子どもたちと生活する中で、色々と考えさせられることがあり、子どもたちには、『自分の人生は自分自身が決めるもので、環境のせいにしてたり、人のせいにはしない方がいい。とにかく素直に、自分自身を見つめて、他人が言ったことをそうかもしれないと受け止め、やってみることが大切』というような人としての生き方の話をしています。4月には中学生になります。中学生になるといことは、立派な大人として、人として生きる準備期間の始まりです。小学生までのように、自分中心に物事を考え行動してきたことを、自分自身を律した言動や行動が求められます。そして、立派な大人（立派な人間）になるためには、多くの感動がなければなりません。感動は楽しい、嬉しい肯定的なものだけでなく、辛い、厳しいという感動も人が成長をするため、立派な大人になるためには大切です。楽をせず『ちゃんとやる』ことができた人には、子どもでも、大人でも、いくつになっても不思議と何らかの形で成果や結果が出ているようです。本当の意味ですごいと思われ『ちゃんとやり』努力をしてきたと認めら

れる人は、誰もが成果や結果が出た後も、生きる姿勢は変わらずに、驕り高ぶることはなく、皆謙虚な姿勢で取り組み、必ず感謝の心があります。このステパノだよりの原稿を書いている今も平昌冬季オリンピックで金メダルを獲った羽生結弦選手や小平奈緒選手のコメントからも多くの生きる姿勢の学びがあります。

スポーツや他の分野では、一流になるのは本当に難しいことですが、『ちゃんとやる』ことは、身近な生活のなかでも、人として生きる生き方、生きる姿勢は誰もが一流を目指せるはずですし、立派な人間（大人）になれるはずで、私たち教師はこれを目指さなければいけないと思っています。

この整った環境の日本に住んでいる私たちは、自分自身があきらめずに進もうと思えば、必ず成果や結果が何らかの形で返ってくる社会だと信じたいですし、そうでなければなりません。でなければ、成熟した本当の意味での先進国などとは絶対に言えません。自分自身に甘えずそして、誤魔化さずにちゃんとやり誰にでも、何にでも感謝する心が備わっていれば、自分自身の成果や結果はもちろん、果ては未来の世界平和の成果や結果に繋がっていくことになると思います。それには、先ず自分自身の『ちゃんとやる』を今一度考えてみることも必要ではないでしょうか。

わたしたちの目標

教諭 田中 圭史

今年、中学校は十九名の卒業生を送り出します。彼らは四月からの高校生活に希望を抱いていることでしょう。それは十代の輝かしい時期を過ごすためにとても大きな位置を占めています。しかし、大切なのは高校生活がゴールではないということです。ゴールどころか重要な分岐点であり、ここからがスタートです。本格的に自分の人生を自分で歩んでいくということです。誰かが代わりに歩んでくれることはあり得ません。最終目標は個々人が社会的にも経済的にも、そして精神的にも自立した大人になることです。

一人ひとりの力も課題も様々ですが、巣立って行く彼らに共通に伝えたいことは、「自身を愛すること」です。別の表現をするなら、自分がかけがえのない一人の人間なのだと認め、他人と比較しないこと、です。それは自分を卑下もせず、優越感に浸ることもありません。他者を認め、受け入れ、共存していく。自分の存在も脅かされず、相手を追いつめることもしない。そんなバランスのとれた健やかな心を培ってほしいと願っています。心は一生かけて成長していきます。そして他者と比較しないということは、現状に甘んじるのではなく、目標をもって全力で人生を歩んでいくということです。目標がなくて

も時は過ぎていきますし、人生も進んでいきます。しかし、目標がある人生、目的がある人生は豊かで、私たちに何倍も喜びを与えてくれます。

それぞれ高校に進学したらこうしたい、あるいは将来こんな仕事に就きたい、こんな人になりたい、といった目標をもっているでしょう。ぜひ実現するように応援しています。そして、それらとは別に一生かけて目指していく目標があります。

二〇一四年にノーベル平和賞を受賞したマララ・ユスフザイさんは、受賞の前年に国連総会でスピーチをしました。そこでは「世界にはまだ多くの不平等があります。たくさんのごどもが、貧困、差別、不正、無学などに苦しんでいます。だからこそ、一人ひとりが立ちあがり声を出していかなければなりません。声を出して世の中を変えていくべきなのです。そのために必要なのは、まず、学校と教育です。わたしたちは、ことばによって自分の気持ちを表せるようにしなければなりません。一人のごども。一人の教師。一冊の本。一本のペン。それさえあれば、わたしたちはことばをつかうことができるようになります、声をあげて世界をよりよいものにしていくことができますのです。教育が世界を変えるための解決策です。明るく平和な未来。わたしたちはそれを自分たちのことばでつくりだしていかなければならないのです。」『ぼくたちはなぜ、学校へ行くのか。』ポプラ社 抄訳 石

井光太」と語っています。これは遠い外国の話ではなく、日本にも当てはまることだと認めなければなりません。学校へ通う理由は、私たちが平和をつくり出す責任があるということ。平和をつくり出す知識と技能と心、そして他者との共存を学んでいかなければなりません。私たちは努力しなければ、平和をつくり出すことはできません。そして、それは身近な生活から実現されるべきものです。これからの社会を担っていくために、世界中にいる同世代の若者がどのように生きているのかを知っておくべきです。

もう一人の言葉を紹介したいと思います。オーストリアの心理学者・精神科医であるフロイトは第二次世界大戦下に強制収容所に収容される経験をしました。彼は次のように言っています。「私たちは、人生がたえずそのときそのときに出す問い、『人生の問い』に答えなければならぬ、答えを出さなければならぬ存在なのです。」「人生のルールは私たちに、どんなことをしても勝つということを求めていませんが、けっして戦いを放棄しないことは求めているはずだ。」「それでも人生に、イエスと言う」春秋社）人生に困難は起こってきますが、そのたびに自分自身で答えを見つけて『人生の問い』に答えるだけの価値が私たちの人生にはあるのです。

人生は一回きりです。一回きりで終わりがあからこそ、一所懸命になれるし、一所懸命に生きる価値があるのです。

「小学校」卒業を前に「中学生になったら頑張りたいこと」や「将来やりたいこと」などを一言ずつ寄せ書きしました。中学校生活に向けて、夢がふくらむ六年生たちです。

I・K

中学生になったら、授業をちゃんと受けて、頭が良くなりたいたいです。そして、将来役に立つことをおぼえたいです。

K・Y

私は、中学生になったら運動部をがんばります。そして、数学をがんばってやりたいと思います。今から中学生になるのを楽しみにしています。

U・M

ぼくは、苦手な算数と音楽を上手にできるようになって、ほかの教科ももっと得意になり、ほかの部活もがんばりたいです。

G・S

中学生になったら友達をふやす。陸上部でいい記録を出す。そして、勉強でもおいていられないようにする。

O・R

中学生になったら、陸上部に入り、一日も休まず出席して、マラソンで良い記録を出したいです。

S・H

私が中学生になったら、勉強をがんばりたいです。特に国語などをがんばりたいです。運動部もがんばってやっていきたいです。

K・S

中学生になったら、勉強をがんばりたいです。部活をがんばりたいです。あと友達と仲良くしたいです。

S・R

中学生になったら、勉強を頑張りたいです。特に、数学、歴史が楽しみです。どの教科も頑張っていきたいです。

K・R

中学生になったら、バスケットボール部とハンドベル部をやるのが楽しみです。あと中学生になっても勉強をがんばります。

T・N

私は、中学でまた、皆と三年間いっしょにいられてうれしいです。新しい友達とも仲良くしたいです。よろしくお願いします。

中学生になったら、テストがあるので勉強をがんばりたいです。そのためには、勉強時間をふやします。あと、勉強に集中します。

中学生になったら、ふざけて良い時と悪い時とをしっかり区別して、自分のやるべき事を進んでできるようにする。

N・K

中学生になったら、友だちをもっと作りたいです。やりたい部活は、陶芸部です。

N・S

小学校の時よりも勉強して、成績をのばして、中央農業高校に行って、専門学校に入り、資格を取って、夢に向かってがんばります。

M・I

中学生になったら、運動部をがんばって、忘れ物をなくすことと、数学と理科と国語の授業をがんばりたいです。

M・M

中学生になったら、勉強をがんばって努力して高校に行き、大学に入って、エリート社員になって、金持ちになって、好きな物を買う。

Y・H

STEPHENS NEWS

表彰【あすなる交歓会】

絵画の部	銀賞	小3	T・M
刺繍の部	金賞	小3	A・M

「中学校」卒業にあたっての今の思い」を一人ひとりが言葉にしました。



A・S
卒業するに当たってということを書いておかしらばらく考える中で、入学した当初のことを振り返ってみると、良くも悪くも変わったなと今になって思います。その変化の中で学んだことを後の高校生活に役立てたいと思います。

I・R
僕は神奈川県から出て島根県へ行きます。島根県はとても静かでのんびりしています。高校では、部活や勉強、特に友達を作りたいです。異郷の地なので頑張っていきたいです。

I・M
高校生になったらいっぱい勉強したいです。高校に入って、好きな部活頑張りたいです。

O・R
ぼくは、高校に行ったら中学校よりもいっそう勉強に取り組みたいと思っています。また、絵をたくさん描いてみたいと思います。

S・Y
高校にいったって、もっと勉強をがんばっていきなりたいと思います。たとえば数学とか英語とかがんばりたいです。がんばって高校にいきなりたいです。

S・Y
高校でも勉強を頑張っていきたいと思っています。たとえば数学とか英語とかです。

S・R
高校に入って、出遅れないために勉強したいです。

T・Y
私は小学校三年生の十月に転校して来ました。初めは何をしていいのかわからなかったけど、ステパノの先生方が私に優しく接してくださり色々助かりました。卒業しても会いに来ます。

N・Y
九年間ありがとうございました。わたしは高校になったら資格をたくさんとって、将来のために生かそうと思っています。

H・S
卒業するのはさみしいかもしれないけれど、ステパノで勉強できてよかったです。

H・Y
高校になったら、陸上を頑張ってレギュラーを取って、全国大会に出場して、テレビに映ることを目指します。

H・R
一級建築士に向かって、一步一步進んで行くために、しっかりと勉強に取り組みたいと思います。

F・H
高校に進学したら、自分の夢にだけ頑張っ取り組みではなく、勉強もしっかりやっていきます。スケートでは、関東大会や全日本ジュニアに出場したいです。

M・T
これから、私は高校生になります。それにあたって今のうちに自分ができる努力を最大限、努めていきたいと思っています。そして、高校でたのしむために一日一日を大事にし、コツコツ努力を重ねていきたいです。

M・N
当たり前だけど、学校に登校して授業を受けて、そして、高校を卒業したいです。

M・K
中学を卒業するのは、とても悲しいです。高校生になったら、勉強と部活をがんばりたいです。

M・K
僕は、ステパノに来たことで、「学校に行く」ということが、嫌でなくなった。中学校では毎日学校に来ることはできなかったけれど、高校に行ってがんばってみようと思えるようになった。

M・T
僕は、小学二年生の時にステパノに転入してきました。小学校は五年間、中学校は三年間ステパノで色々な友達や先生方にお世話になりました。感謝の気持ちでいっぱいです。

I・K
高校で頑張りたいことは勉強を中心にやっていきたいと思っています。そのためには、日々努力を積み重ねて頑張っていきたいと思っています。「これまでのステパノでの学び」を自分のために生かしていきたいと思います。



私塾まきば園長の山田雅井先生は、二十歳代の八年間、澤田美喜先生と働いていました。その時の貴重な思い出を伺いました。

* * *

ママちやま（澤田美喜先生）はすごくユニークな方でした。人を喜ばせることが大好きでジョークが次々と飛び出し、職員室は笑いに溢れていました。

ダメと言われたこともありません。お願いするといつも「いいわよ」「こうしたらどうかしら」と受け入れてくれました。放課後に時間を持て余している子どもたちと部活をやりたいと言ったらママちやまの庭にテニスコートを作らせてくれました。歌の大好きな子どもたちと聖歌隊を始めてみたり、自由に子どもたちとの生活を楽しむことができました。

情が厚いという言葉がぴったりで、一人一人を自分の心の中に置いてくれているのが伝わる方でした。年に何回も海外に行くので子ども達、職員一人一人にそれぞれにあったお土産をくださるのです。誰に対してもきめ細やかに心配りをする人でした。さりげなく終わらせず形

にして表すのですね。誰もがみんなママちやまにかわいがっていただいたという思いを持っているのです。

一方で厳しさもありました。子どもたちが間違ったことをしたら絶対に許さず、徹底的に叱ります。主の祈りを百回書かされた子もいました。ママちやまのハイヒールの音が響くと、みんなハツとして緊張するんです。

それでも子どもたちは、ママちやまが自分たちを育ててくれたと感謝して慕い、ホームを自分の実家、故郷として忘れませんでした。子どもたちが得意なことのためにできる限りの支援をしたし、将来「あなたがいてよかった」と思われ、認められる仕事をしてほしい、必要とされる人間になって欲しいという深い思いが伝わったのでしょうか。「胸を張って生きなさい、下を向いてはいけません」と子どもたちにもいつも言っていました。

世界的に活躍されるママちやまがそばにいることに、全くギャップを感じませんでした。いつも人間として対等に話をしてくれたからです。年齢、地位の差など一切関係なく、誰もが神様に愛される一人だということを実践されていたのです。

ママちやまがどんな思いでステパノを作られたのかを皆さんにも忘れないで欲しいです。個人個人は違っているし、違っていることを大事にしたいものです。敷居のないグローバルな生き方を受け継いでいきたいと思えます。

（聞き手 SAの部屋委員）

STEPHENS NEWS

【お詫び】

1月号本ページに於いて、掲載漏れがありました。お詫びし、追記致します。

【表彰】第85回全国書画展覧会

小学校	金賞	小6 O・R
	金賞	小6 M・M

【マラソン大会上位入賞者】

小一・二年の部 (1.2 km)	第一位	小5 K・S
	第二位	小5 O・K
	第三位	小6 U・M
小二	小2 T・M	中学生
第三位	小2 H・U	男子の部 (3.4 km)
小三・四年の部 (1.7 km)	第一位	中3 H・Y
	第二位	中3 F・H
	第三位	中2 O・S
第一位	小3 K・S	女子の部 (3.4 km)
第二位	小3 T・M	第一位
第三位	小4 F・H	中3 S・Y
		第二位
		中1 S・S
		第三位
		中2 S・S

編集後記

三月になり、一気に春へと歩みが進んだようです。一年間、ご愛読ありがとうございました。来年度もより良いものを目指して励んで参ります。(め)

代表者 学園長 小川 正夫

発行者 聖ステパノ学園小学校・中学校

ステパノだより編集委員会

〒二五五〇〇三 神奈川県中郡大磯町大磯八六八

TEL 0463-61-1298

FAX 0463-61-9739

http://www.stephen-oiiso.ed.jp
二〇一八年三月八日(木) 発行 第219号